

1. カツオの回遊について

カツオは、太平洋に広く分布しており、常磐・三陸沖の漁場はその北限に当たり、漁獲量の年変動が大きい。この海域への主要な来遊ルートとしては ①黒潮沿いに北上するルート、②小笠原伊豆諸島付近を北上するルート及び③さらに沖側の伊豆諸島東沖を北上するルートである。特に重要なのは小笠原伊豆諸島付近と伊豆諸島東沖ルートである(図1)。

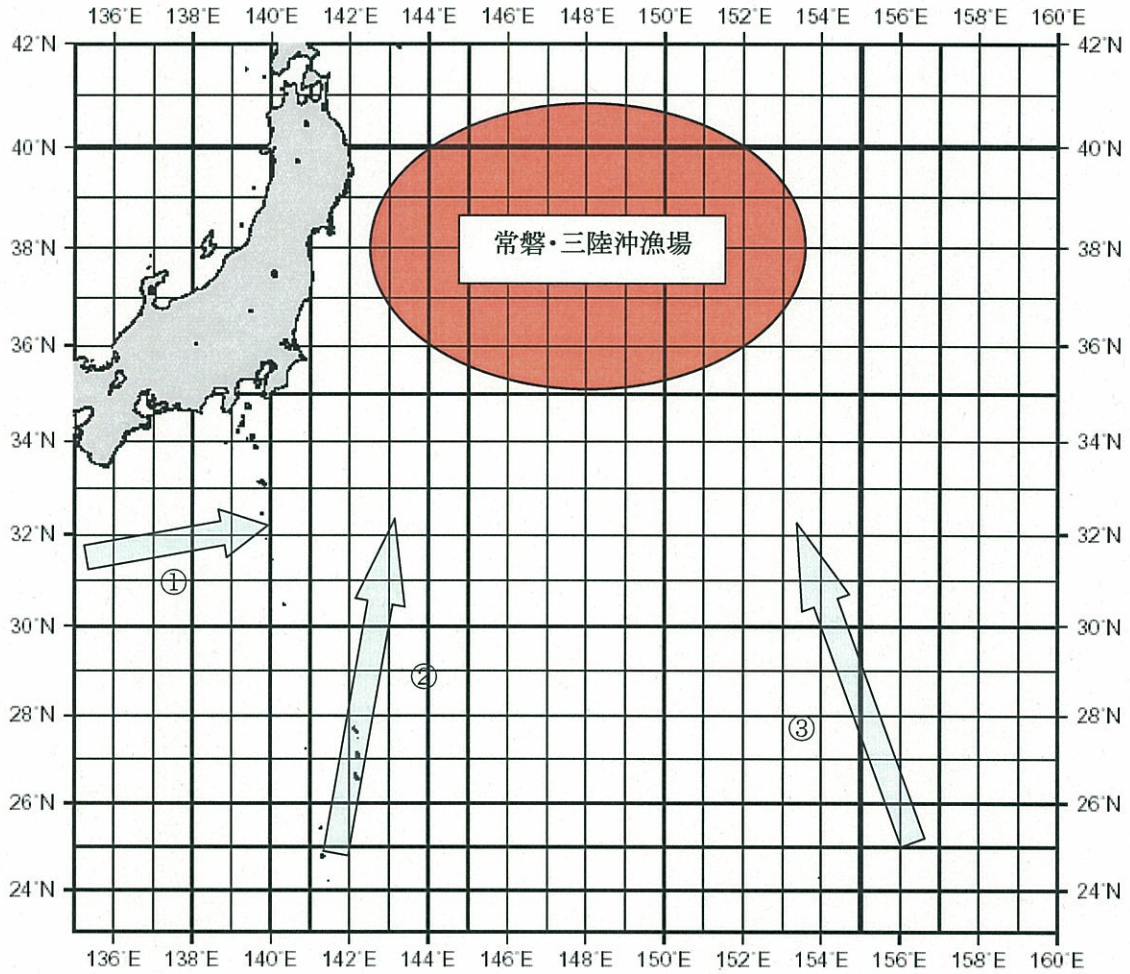


図1. カツオの主要な北上ルート(概念図)

2. 常磐・三陸沖漁場における今後6月～11月の来遊動向の予測

(1) 来遊資源量 (図2)

直近の来遊資源動向は、4月中旬から6月上旬における近海竿釣り漁の旬別CPUE(1日1隻あたり漁獲量)は平年をやや上回った。一方、伊豆諸島～房総近海の曳縄の漁況は平年と比較して極めて低調であった。

5月上旬から6月上旬の竿釣りCPUEと6月以降のCPUEの関係から、常磐・三陸沖への来遊資源量は昨年を上回り過去10年の平均値をやや上回ると予測された(図2)。

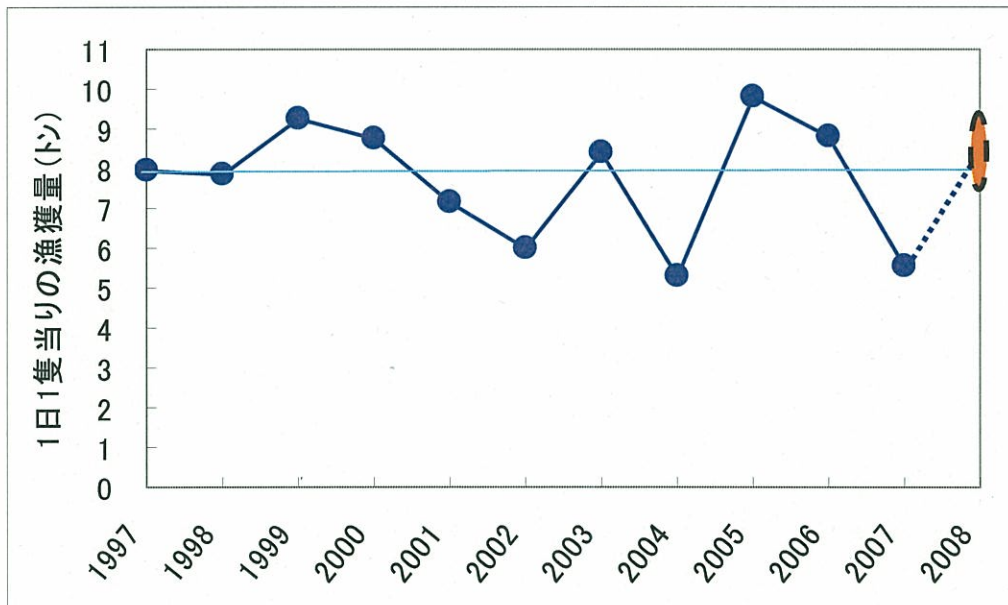


図2. 近海竿釣り船による6月～11月の平均CPUE(1日1隻あたり漁獲量)
図中の横線は過去10年間の平均値(1997～2006年)を表す。今年の予測水準は楕円で示した。1997年～2006年は漁獲成績報告書からの集計値、2007年は漁況情報の集計による暫定値。

(2) 主分布域 (図3)

東北海区海況予報第2号によると、6月上旬現在の黒潮系暖水は、近海では $35^{\circ}40'N, 142^{\circ}E$ 付近から $40^{\circ}N, 144^{\circ}E$ 付近まで張り出し、沖合では $36^{\circ}N, 145^{\circ}E$ 付近の暖水塊から $40^{\circ}30'N, 148^{\circ}30'E$ 付近へと張り出している。今後、黒潮系暖水は次第に北上し、近海での北限位置は7月上旬には $41^{\circ}N, 144^{\circ}30'E$ 付近、8月上旬には $41^{\circ}30'N, 145^{\circ}E$ 付近となり、沖合では7月上旬の $40^{\circ}30'N, 148^{\circ}30'E$ 付近、8月には $146^{\circ}E\sim 149^{\circ}E$ で $40^{\circ}30'N$ 付近まで張り出すと予測されている。

カツオは黒潮系暖水の張り出しの西側域に主として分布することから、6月～8月(北上期)には、常磐・三陸近海の $36^{\circ}N, 142^{\circ}E$ から $41^{\circ}30'N, 144^{\circ}E$ 付近(福島県塩屋崎～下北半島東方の200～300キロ沖)ならびに常磐・三陸沖合の $36^{\circ}N, 145^{\circ}E$ 付近から $38^{\circ}N, 146^{\circ}E$ 付近、さらに $40^{\circ}30'N, 148^{\circ}E$ 付近までの海域(福島県塩屋崎～青森県鮫角東方の300～500キロ沖)を中心にカツオ魚群が分布すると考えられる。

9月～11月(南下期)には、 $145^{\circ}E$ 以西の沿岸側海域にカツオ魚群が来遊し、 $37^{\circ}N\sim 41^{\circ}N, 142^{\circ}E\sim 147^{\circ}E$ (福島県塩屋崎～岩手県黒崎の100～450キロ沖)の海域に分布すると考えられる。

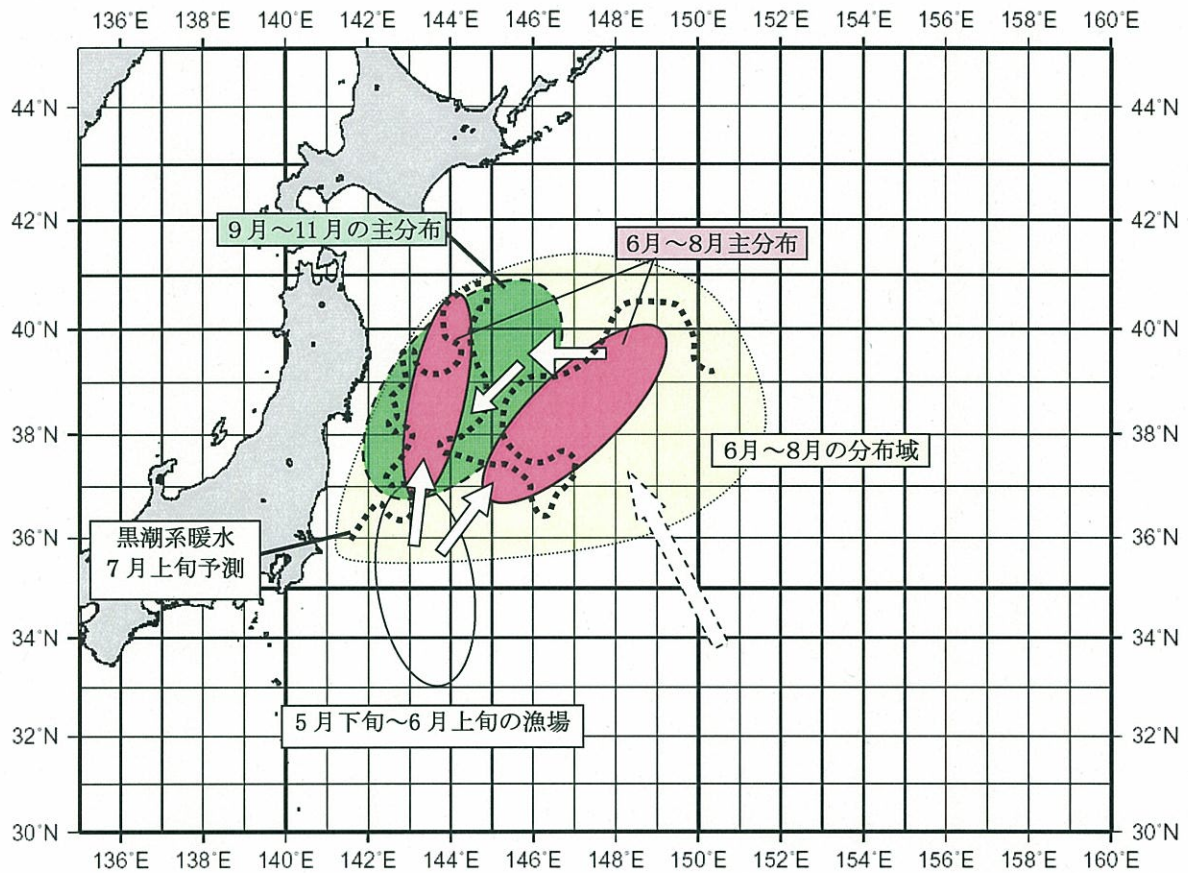


図3. 2008年6月～8月(北上期)と9月～11月(南下期)におけるカツオの主分布域(黒潮系暖水は、夏以降北へ張り出すと考えられる。)

(3) 魚体

6月上旬現在、体長48cm前後(体重2.5kg前後)の魚群が来遊資源の中心となっており、過去の体長組成の季節的な推移から、南下する秋には体長51cm前後・体重3kgを超える個体を中心になると考えられる。

問い合わせ 水産庁増殖推進部漁場資源課国際資源班
 担当 今井、吉原(6803)
 代表 03(3502)8111
 直通 03(6744)2380
 独立行政法人水産総合研究センター
 遠洋水産研究所温帯性まぐろ資源部
 かつお・びんなが研究室
 担当 魚崎
 代表 054(336)6000
 直通 054(336)6036

なお、本情報は、国際資源調査に関するホームページ(<http://kokushi.job.affrc.go.jp/>)にも掲載いたしますので、併せてお知らせいたします。